



TRICK STAR



FIM Asia Road Racing Championship 2016

ROUND6 Chang International Circuit , Thailand

参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR Racing
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン : 山本剛大(#1)
田中 歩(#82)
- 開催日/サーキット : 2016年12月1日(木)~12月4日(日)
Chang International Circuit (Buriram Thailand)
- マシン : カワサキNinja250
- 結果 : 山本剛大 レース1 21位 レース2 2位
田中 歩 レース1 リタイア レース2 10位

2016アジアロードレースチャンピオンシップ (ARRC) 第6戦の最終戦は、タイランド・チャンピオンインターナショナルサーキットで開催された。

毎戦、激しい戦いを繰り広げ、山本選手はランキング2位・田中選手はランキング9位、そしてチームランキングは2位で最終戦を迎えた。



【12月2日(金) 公式予選】

Qualify 14:40~15:10 天候:晴れ コース:ドライ
気温:26℃ 路面温度:38℃

予選開始時間がスタートし、各ライダーがタイムを出せるよう他のライダーの後ろに着き、風の影響を避けながら走行するスリップストリームを多用しタイムアタックを繰り返して行く、そんな中ゼッケン#82 田中歩選手が計測4周目で4番手のタイムを計測する。

一方の山本剛大選手は決勝を見据えての走りを確認するように単独でマシンのセットアップを行いながらの走行をしていた。フリープラクティスでは前回の大会の記録を上回るラップタイムを出す選手も数人いた。

やはり最終戦ともなるとマシンのセットアップやライダーのスキルも向上してきた結果であることは疑う余地はない。

各ライダー序盤のタイムを更新しながら終盤に差し掛かった。ここまで単独走行をしていた山本選手のタイムは10番手あたりのポジションだった。

田中選手は果敢にタイムアタックを繰り返すもベストタイムを更新出来ずにいた。

いよいよ残り時間も少なくなった所で山本選手が他のライダーのスリップストリームを活かしタイムアタックを行なった。

モニターに映し出されるセクター1、セクター2ともベストラップで通過していく。

最終セクターでペースの遅いライダーをかわすのに手間取り自己ベストは刻めなかったが、計測ラインでは全体の2番手タイムとなる1分55秒427をマークした。

一方の田中選手は序盤に出したタイムを更新するも5番手タイムとなった。

山本選手 2番手
田中選手 5番手

【12月3日(土) 決勝レース1】

Final 1 15:00～ 10LAP

天候:晴れ コース:ドライ 気温:29℃ 路面温度:40℃

スタート、山本選手は少し出遅れ田中選手はまずまずのスタート。1コーナーは山本選手4番手、田中選手は6番手で進入。3コーナーまでのロングストレートで山本選手はトップ、田中選手は2番手に上がる。最終コーナーでは後方で3台の接触転倒があった。

3周目1コーナー、山本選手はトップ、田中選手は8番手で入る。

4周目1コーナー、山本選手は4番手、田中選手は5番手で入るが、3コーナーまでのストレートで、マシンの性能を活かし、山本選手はトップ、田中選手は2番手に上がる。

レース中盤になり、各ライダーのポジション争いが激しくなってくる。

最終コーナー進入、縁石の上でブレーキングを余儀なくさせられた山本選手は、走行ラインが大きく膨らみ、6周目6番手で入る。一方 田中選手は好位置3番手に着ける。

トップから13台程のグループを形成しているが、4～5位までは限られたライダーが争っている。

9周目1コーナー立ち上がり、山本選手は3番手、田中選手は無理やりラインに進入してきた選手にラインを阻まれ10番手に下がっていた。

10周目最終ファイナルラップ、山本選手はトップ、田中選手は8番手で入る。

3コーナー立ち上がりで少しコースアウトした山本選手は6番手に下がり、田中選手は5番手に上がる。

4コーナー進入で、田中選手は4番手、山本選手は5番手に上がる。8コーナーで2番手走行中の選手がフロントタイヤを滑らせ転倒。トップと3番手走行中の選手を巻き込んでしまう。さらに、3台の転倒マシンが行く手を阻み、直後を走行していた田中選手、山本選手 2名とも巻き込まれ転倒してしまう。

山本選手は再スタートし21位でゴール。田中選手は再スタートは出来ずリタイヤ。2台のマシンは大破してしまうが、ライダーは幸い大きな骨折等の怪我を負うことは無く、翌日のレース2に挑むよう気持ちを切り替えた。



【12月4日(日) 決勝レース2】

Final 2 15:00～ 10LAP

天候:晴れ コース:ドライ 気温:24℃ 路面温度32℃

前日の決勝レース1での転倒で、山本選手は全身打撲、田中選手も全身打撲に加え右足指が大きく腫れていた。スタート、2人ともクラッチミートは良かったがライバル達がマシンを寄せてくる。1コーナー進入では山本選手4番手、田中選手5番手。しかし、すぐさま3コーナーまでに山本選手はトップに上がる。1周目終了時点で、山本選手2番手、田中選手6番手。トップの#24アピワット選手と山本選手が、早くも後続を引き離している。

2周目の3コーナーまでにトップ争いの2台は更にペースを上げ、後続を引き離していく。

田中選手は4コーナー進入で数台を一気に抜き3番手に上がる。

明らかにトップ争いをしている2台のペースが速い。

田中選手は、右足指の腫れが影響しているのか集団から抜け出せず7番手を走行していたが、3周目の3コーナーまでに一気に3番手に上がり、4周目に突入。

田中選手も後続を引き離しに掛かるが、ロングストレートでスリップに入れられ3コーナーまでに先行され思うような走りが出来なく、5周目には8番手まで下がる。そして7周目に入るころには11番手まで下げる。やはり右足指が影響しているのか。

10周目ラストラップに入る頃、トップ争いの2台は後続と6秒以上の大差をつけていた。田中選手は混戦のグループ集団の中、10番手。

アピワット選手が山本選手のスリップから4コーナー進入でインを刺してくる。山本選手は、ゴールラインまで食い下がるが、2番手でチェッカーフラッグを受ける。一方、田中選手は10番手でゴールする。



【ライダー 山本 剛大 選手 コメント】

最終戦終了しました！！

決勝レース1は転倒してしまいましたが、決勝レース2はアピワット選手と1対1のバトルの末2位で最終戦を終えました。

今までのAP250クラスにはないくらいクリーンかつハイペースのバトルを最大のライバルと展開することが出来たので負けてしまいとても悔しいですが、良いレースが出来たことに、とても喜びを感じています！！

ランキング2位で目標には届きませんでした

1年間チームのみんなとNinja250と真剣に向き合いNinja250を限界までつきつめることができライダーとしてとても勉強になるシーズンでした(^^)

2017年の参戦クラスなどいろいろは決まっていますが引き続きTRICK STAR Racingで活動する予定ですので引き続き応援よろしくお願いします！！

最後にチーム、スポンサー様、ファンの皆様、家族1年間多大なる応援、サポートありがとうございました！！ これからもがんばっていきます！！

山本 剛大



【ライダー 田中 歩 選手 コメント】

今回のアジアロードレース選手権 (ARRC) 最終戦の前に開催された日本でのレースで JP250クラスチャンピオンを獲得し、ここタイランドに入りました。

良い流れのままARRC最終戦を迎え優勝目指してマシンのセットアップを行っていましたが、公式練習で転倒してしまい、決勝レースを見越して組み立てていたスケジュールの見直しを迫られました。担当メカニックさんが懸命に転倒修理を行ってくれ、不安なく予選に挑み5番手グリッドを獲得しました。

決勝レース1は、トップグループが10台以上の集団で周回を熟していましたが、ファイナルラップの4コーナーで4番手に上がり、最終コーナーまでに仕掛け1台でも多く抜くイメージを持って走行していましたが、8コーナーで2番手を走るライダーが転倒し、さらにトップと3番手の選手まで巻き込み、自分の目の前で走行ラインが塞がれ、避ける事が出来ずはどうしようもなく転倒してしまいリタイヤとなりました。幸い骨折は無く、全身打撲で決勝レース2に挑むこととなりました。

決勝レース2は、序盤にトップを争う2人に離されましたが、第2グループ内で主導権を握り3番手に上がり後続を引き離そうとしていました。しかし前日の転倒の影響で右足指が腫れていて、マシンを抑えることとブレーキングを何時ものように行うことが出来ず、レース後半にはグループにのみ込まれ、結果10位でチェッカーを受けました。

やはり、ARRC前戦のインド大会から転倒が続き、自分のペースを維持出来なかったのが反省点です。

最後に毎戦、素晴らしいマシンを準備して下さったチームを始め、スポンサー様、応援して頂いている皆様感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
2017年度の予定はまだ決まっていますが、引き続き応援よろしくお願ひします。

田中 歩



【監督 鶴田竜二 コメント】

決勝レース1

我がチームの山本選手、田中選手2名は最終ラップまで激しいトップ争いを繰り広げてくれていました。しかし、残り4つ目の右コーナーで多重クラッシュに巻き込まれてしまいました。山本選手はマシンを起こし21位でゴールしましたが、田中選手は直後は身体を強く打撲してしまい身動きがとれずリタイヤとなってしまいました。幸い、2人とも怪我は無く決勝レース2に向けチームはマシンの修復を完璧に仕上げる為、夜遅くまで作業を行いました。期待通りの結果ではなく残念ですが、気持ちを切り替え決勝レース2に挑みました。

決勝レース2

山本選手、最終ラップまでアピワット選手との2台のトップ争いを繰り広げていましたが、最後はトップを奪われ2位でゴールとなりました。一方の田中選手は序盤3位争いのグループで先頭争いをしておりましたが昨日の転倒の影響か、終盤にはなかなか前に出ることが出来ず10位でゴールとなりました。

これで1年のレースが終わりましたがチームとしては昨年に続き連続チャンピオンを目指し、常に優勝を狙って参戦してきました。

最終戦は2位となり、シリーズチャンピオンも前回のインド戦で奪われてしまいランキングも2位となってしまいました。

狙い通りの結果とはいかずとても悔しいのが本音です。

しかし、いつも毎回狙った結果がその通りにはならないのがレースの世界であり、勝負の世界は非情なものだと思います。

またこの悔しさがあるから、次への成長に繋がれるとも思っております。

悔しい思いはありますが素晴らしいレースを繰り広げてくれた山本選手と田中選手、それを支えるチームスタッフはとても良く頑張ってくれて、とても誇らしく思います。

アジア選手権シリーズ、シーズンを通してご支援を頂きました各スポンサー様、ご関係者様、いつも熱い応援を頂いているファンの皆様のお陰様でシリーズを戦い抜く事が出来ました。

本当にありがとうございました。

心から感謝しております。

TRICKSTAR Racing
鶴田竜二

